

まちづくり専門家を招いた講演会&ワークショップを開催しました

地域集落課題の把握や共有、未来像の形成に向けた手法を学ぶ講演会「**そうだ まちまかない会社をつくろう～田舎の力で目にも物を見せよう**」を1月18日、2月15日の2日間、問寒別生涯学習センターで開催しました。併せて、住民参加型で未来のまちの姿を考えるワークショップも行いました。



松村 博文氏

講師に招いた北方建築総合研究所副所長の松村博文氏は、住民を中心とした“半公的”な組織「まちまかない会社」の必要性を訴え、具体的な業務内容について言及しました。

まちまかない会社をつくるポイントとして、①高齢者は単に医療・福祉サービスの受け手となるのではなく、地域運営の担い手になってもらい、健康寿命を伸ばし、幸福度を高め「いつまでも住みたいまち」だと感じてもらうこと
②互いの顔が見えたり、つながりが強い「田舎の良さ」を認識し、活かすこと
③高齢者の活躍の場になりえる、まちまかない会社が「しっかり儲ける」、または、「儲からないけど必要なこと、喜ばれることに取り組んで様々なことを仕事化するよろず会社となること」が重要であると提案されました。

ワークショップの第1回目では、50年後を仮想した未来人になりきり、未来から現在を見る「フューチャーデザイン」の練習を行い、50年後の幌延の状況について話し合いました。

第2回目は、具体的に「未来の幌延町・問寒別」についての意見を整理し、グループごとに内容を発表しました。参加者からは、「未来の幌延町を想像した時、今解決しなければならない課題は多いが、こうなっていたら良いな、という夢が詰まったアイデアを共有できた」、「町を取り巻く環境は今と大きく変わっていくだろうが、人と人とのつながりなど良い部分は今のままであってほしい」などという意見が上がりました。



地域の未来について話し合うワークショップ

メダリストの母が教える運動法&子育て懇談会を開催しました



上野和香子氏

オリンピック柔道メダリストの上野姉妹の母親でNPO法人とうまスポーツクラブ理事長の上野和香子氏を招いた「**楽しく学ぼう！ コアディネーショントレーニング&子育て懇談会**」を2月6日、問寒別生涯学習センターで開催しました。参加者は、簡単に体を動かしながら運動能力を高めるトレーニング法を学びました。

上野氏は「大人が寝返りする時は上半身を使うが、赤ちゃんは足から動く。その違いは何か」など参加者に体と脳の関係性を意識させ、頭で考えながら運動をすることの重要性を紹介しました。

考えながら体を動かすことに慣れていない参加者は、ロボットのようにぎこちない動きになってしまう人もおり、会場内では自然に笑いが生まれました。脳や体を活性化させつつ、楽しい雰囲気の中で運動が行われました。上野氏が柔道家の三姉妹を育て上げた話をする、さまざまな質問が飛び交いました。「子供と適度な汗をかきながら、頭を使う運動の楽しさに感銘を受けた」「子育てについて深く話してもらえようような講演会を開いてほしい」などの意見も上がり、好評でした。

※ この事業は、問寒別地区で親子のふれあいの場づくりを提供する「おひさま子育て会」と協力して行いました。



転がるフラフープをくぐる子ども